



海外学校間交流推進校

今を生きる

都立小笠原高等学校長 西村 伸二



人生とは、今日一日一日のことである。
確信を持って人生だと言える唯一のものである。
今日一日をできるだけ利用するのだ。
何かに興味を持とう。
自分を揺すって絶えず目覚めていよう。
趣味を育てよう。
熱中の嵐を体じゅうに吹き通らせよう。
今日を心ゆくまで味わって生きるのだ。 (デール・カーネギー)

高校時代を未来の準備期間だけにしてはならない。
準備だけの空虚は御免被りたい。今を充実して生きることを知らない者が未来に充実した人生を味わうことはない。皆さんにとって最も必要な力は今を精いっぱい生きる力である。
主体的に学ぶことが楽しい。多様な仲間と協働すると心が躍る。挫折し、苦しみながら成長する。それが今を生きるということ。

卒業後の進路について、決心はつきましたか？
お家の人とはよく相談しましたか？
その上で担任の先生と情報を共有して進めてください。

カナダ人の心理学者アルバート・バンデューラによって提唱された「自己効力感」という言葉があります。

自己効力感とは、簡単に言うと、何かの行為に対して「私、うまくいくかも！」とか「いいね、自分！」といったポジティブなセルフイメージを持っているということです。言い換えれば、「きっとできる」「自分ならできる」という思い込みです。

「きっとできる！」であれば行動を起こしますが、「どうせ無理！」であればなかなか行動には移れないものです。おが高生の皆さんには、「どうせ、無理。」ではなく、「だったらこうしてみよう！」と周りの人にも自分にも言える人になってほしいと強く願っています。

大事なことは、自己効力感についてはそれが事実かどうかは関係がないということです。つまり、実際に「勉強や仕事ができるかどうか」は関係なく、そう強く思っているかどうかということです。

事実は違うのにそう思い込んでいるだけなんて「ただの勘違いじゃないか！」と思うかもしれませんが、一般論として控えめでいることが美德とされる環境で育った人は、実際より自分がダメだと思う傾向が強く、自己効力感が低いという統計結果も出ています。

もちろん、根拠のない自信だけをもってなんの努力もしなければ、うまく行きっこありま

せん。

でも、「私はきっとできる」という自己効力感を胸に秘めつつ努力を積み重ねていけば、いずれ道は自ずから開けてくるということです。

まずは「根拠のない自信をもつこと」から始めましょう！

そして目の前のやるべきことに集中して取り組みましょう。大事なものは、意思で思うようにならない「心」にとらわれるのではなく、意思で制御できる身体を相手にしましょう。つまり、過去問などに取り組むといった具体的な行動をすることです。「やる気になれないからできない。」と人はよく口にしますが、そうではなく「やっていないからやる気にならない。」だけなのです。

とにもかくにもやり始めること！

やり始めてしまえば、やる気なんてあとから湧いてきます。

「～になりたい！」、と憧れをもつことは大事ですが、そのためには「〇〇をやる。」ことが必要です。

“I want!”から I will!へ今が転換する時期です。そのために私たち教職員は皆さんを応援しています。

チームおが高の一員として、共に頑張ろうおが高生！ 共に学ぼうおが高生！

教務部より

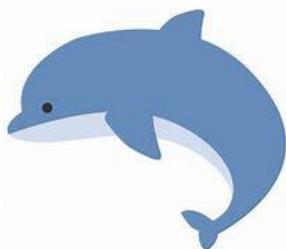
4月9日、気持ちの良い青空が広がるなか、無事に新生14名を迎え、生徒57名で新年度がスタートしました。

今年度も小笠原高等学校教務部は、できる限り生徒のニーズに対応するきめ細やかなカリキュラムマネジメントを実践していきます。本校の教員一同、一生懸命勉強し、目標に向かって一步一步前進していく生徒のみなさんを心から応援しています。普段、生徒たちを近くで見守ってくださっている保護者の方々や地域のみなさまにおかれましても、新しいことを学ぼうとする生徒の背中を押ししていただけると幸いです。

さて、今年度で、本校が令和4年度から実施している新学習指導要領に沿った教育課程が3年目を迎え、この教育課程で学んだ初の卒業生を輩出します。小笠原高等学校教務部としては、彼らの学びの達成度などを良く分析し、より良い教育課程の編成に向けて検討を重ねてまいります。

最後になります

が、今年度もみなさまのご協力を得ながら、精進してまいりますので、1年間よろしくお願いたします。



入学式

生活指導部より

生活指導部から1年のスタートにあたり、全校集会の場で小笠原高校生として守らなければいけない規則に関する話をしました。

生徒全員が学校生活を気持ちよく過ごすために必要なことは、規則を守ることです。学校で行われるすべての学習活動は規則を守った上に成り立っています。しかし、一部の人によって「これぐらいなら」「自分だけなら」という気持ちで規則を破る人が出てくると、学校全体の活動を止めてしまうこととなります。そして、その一部の人によって与えた悪い印象が学校全体の印象として、地域や周囲の人に受け取られるのです。

平日、休日問わず自分の進路に向けて勉強している姿や、部活動に直向きに取り組む姿は小笠原高校の誇りです。一つの目標に対して一生

懸命になれる熱量を正しい方向に注ぎ、地域に誇れる高校生を目指しましょう。

生活指導部は生徒が健全に学習活動に取り組めるよう全力で向き合い、指導してまいります。保護者・地域の皆様におかれましても、本校と共に生徒を温かく、時に厳しく、愛情をもって御指導いただきますようお願い申し上げます。



対面式

進路指導部より

小笠原高等学校進路指導部では三年間の高校教育を通して、将来の人生計画に基づいた進路選択を決定できる力を育てるために必要なキャリア教育を実施しております。そこでまず、高校1年生の時から卒業後の進路を考える必要性についてお話させていただきます。中学校に入学した時は、すぐに中学校卒業後の進路について考えることはしなかったと思います。しかし高校では、1年生の一学期から卒業後の進路についてガイダンスを行います。これは、高校卒業後の進路選択肢の数が、中学卒業後のそれに比べ桁違いに多いためです。それだけの数の選択肢から選ぶには、情報収集と比較検討に膨大な時間が必要です。また、例えば進学希望であれば、志望校を決めて終わりではなく、合格のための受験勉強、志望理由書作成や面接練習、小論文練習など、すべてに時間が必要です。そのため、本校の進路指導部では、2年生の夏休みの終わりまでには志望校を決定できるように動いてほしいと伝えています。志望校決定には、進路指導部で企画・実施している、1,2年生対象の教員引率による内地での「夏季上級学校訪問」をぜひ活用してください。既に予定調整のためにアンケートを実施しております。保

護者の皆様、ご家庭で夏のご予定の調整をよろしく願いいたします。

着任された先生方より

(教科順)

○瀧澤 美和 (数学科・情報科)
(前所属 都立板橋有徳高等学校)

出身は東京都東久留米市です。高校時代は吹奏楽部に所属し、毎日朝から晩までクラリネットの練習をしていました。海が好きで、夏になると海を見にドライブしたりします。マリンスポーツに興味があり、何回か申し込んだことがあるのですが、毎回悪天候により中止となってしまったので、世界自然遺産である小笠原の海でリベンジを果たしたいと思います。今回、「小笠原高校」へ異動することを聞いたときはとても驚きましたが、縁あって異動してこれたことを嬉しく思っています。今できることを精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞよろしく願いします。

○宮崎 要 (数学科)
(前所属 都立日野台高等学校)

初めまして、数学科の宮崎です。入都前から島しょ部の学校に興味があり、今回ご縁を頂き小笠原高校に着任いたしました。「全部楽しんできます！」と言って前任校を離任してきました。とは言いつつ不安なことは多いので、小笠原歴先輩の皆様から助けていただきながら、遮二無二頑張りたいと思います。昔ぎっくり腰をしており、腰に爆弾を抱えておりますが、スポーツをしたり、遊ぶことが大好きです！どうぞよろしく願いします。

○仙波 佑梨 (英語科)
(前所属 都立翔陽高等学校)

英語科の仙波佑梨と申します。小笠原に来てから約3週間が経ち、生活にも少しずつ慣れてきました。これまで行ったことがなかった小笠原は、私にとっていつか訪れてみたい場所の1つでした。先日自転車で島内を回った際、透き

通る青い海がとても綺麗で、ぼんやり眺めているといつの間にかずいぶん長く時間が経っていました。雄大で心地の良い自然に肌で触れながら、改めて、小笠原での新たな生活に心が高鳴りました。これから経験する様々なことを自身の学びとし、皆さんの力になれるよう精一杯努めてまいります。今後ともよろしくお願ひいたします。

○中村 龍太 (英語科)
(新規採用)

全校生徒が50名前後で、地域と連携した経験的・文化的な教育活動を行っている学校。それが、小笠原高等学校に赴任が決まった際の高校への印象でした。そして、私が外国語科(英語)の教員として注目しているのが少人数クラスを基調とした少人数制の授業展開です。英語の授業では、生徒間の英語での「やり取り」を充実させることによって、生徒が英語を使うことができる機会を多く設定することを目標に授業を設計していくことを目指します。

最後になりましたが、「地域と共にある学校」ということで、学校行事を通じた地域住民の方々との関りをもつ機会が様々あると思います。学校内外において、長い目で育ててくだされば幸いです。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○金井 洋子 (家庭科)
(前所属 千代田区立九段中等教育学校)

家庭総合、フードデザイン、ファッション造形を担当させていただきます金井洋子と申します。

人生、何がどうなるかわからないものです。親も祖父母も東京(内地)出身、自分も当たり前のように東京内地で生まれそして生きてきたわけですが、よもや「父島で暮らす」ことになるとは夢にも思いませんでした。しかし、小笠原高校に行こうと決めたのは誰かから強制されたわけではなく自分の意思です。人生100年といわれる時代、まだまだ自分が新たなチャレンジをしなくては、生徒に「何事にもチャレンジ！」なんて言えません。縁あって暮らすことになった父島、食欲にたくさんのことを吸収し

たいと思っています。

家庭科教師としては、島の郷土料理や染物、タコノ葉細工等の文化に触れることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひいたします。

○清水 里沙 (養護)
(新規採用)

4月より新規採用で小笠原高等学校に赴任しました。養護教諭の清水里沙と申します。観光目的ですが、小さいころから日本各地の島を巡ることが多く、いつか島で働きたいと思っていました。まさか一校目から念願が叶うとは思わず、歓喜のあまり、内地から離れる時には涙は一つも出ず、ワクワクしながら父島に降り立ちました。

立派な学校と、素敵な保護者の方と、温かい島民の方々と、豊かな自然の中でみなさんの成長を見守ることができること、とても嬉しく思います。よろしくお願ひいたします。



令和6年度生徒在籍状況(4月9日現在)				
	1学年	2学年	3学年	合計
男子	6	12	9	27
女子	8	15	7	30
合計	14	27	16	57

【お問い合わせ先】

東京都立小笠原高等学校
副校長 安富 良貴

〒100-2101

東京都小笠原村父島字清瀬

TEL 04998(2)2346